

施工説明書

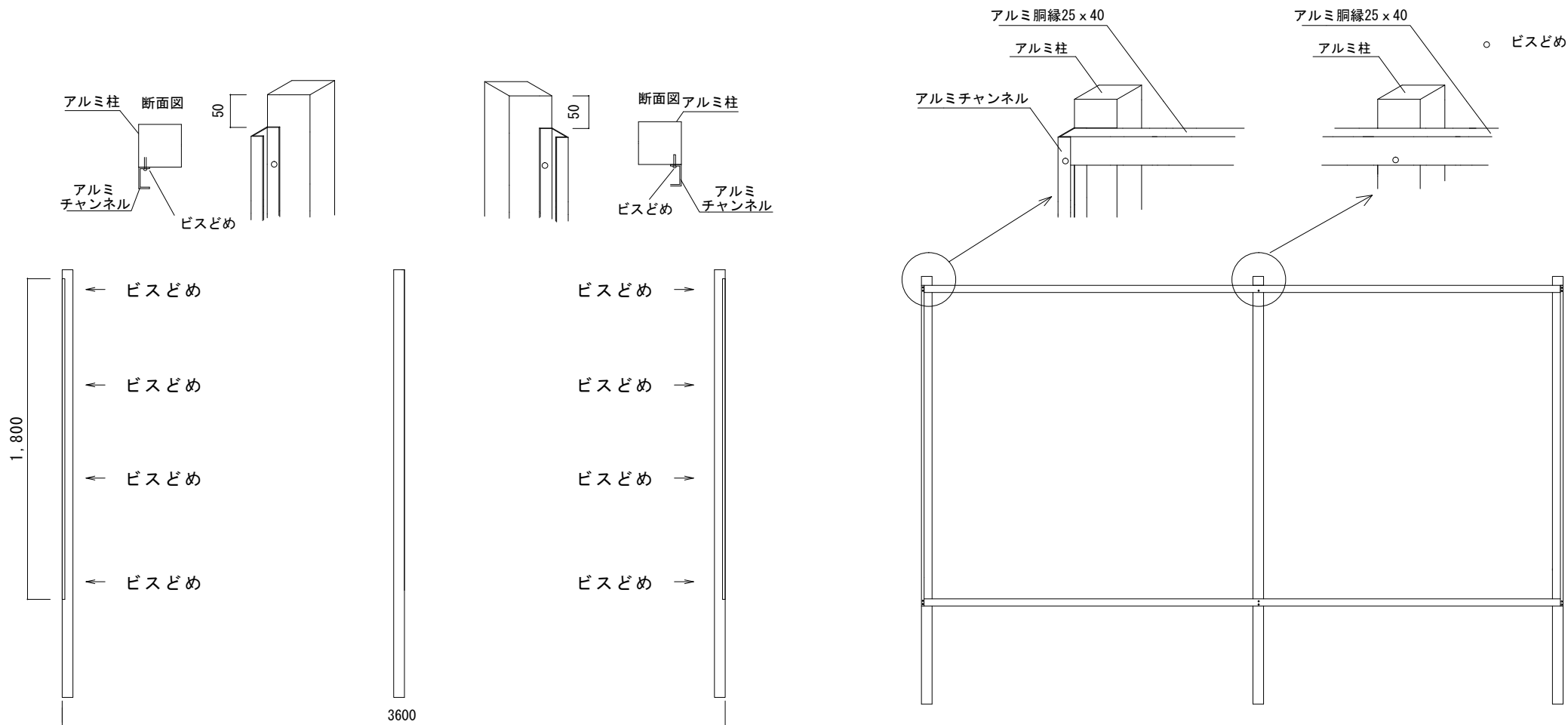
御簾垣 柱を見せないタイプ

H=1800の場合（茶竹仕様の場合、ビスはすべて茶色を使用します）

株式会社エクスタイル

施工に関するお問合せは

TEL 0776-38-2533



① アルミ柱にチャンネルを取り付ける。

アルミ柱の前面の端にC型チャンネルを取り付けます。取付ける位置は柱の上面から50mm下がった所です。H=1800の場合、チャンネル1本につきビスどめ4ヶ所です。

間柱にC型チャンネルは使いません。

※4 x 16 (茶) ビス使用

② チャンネルにアルミ胴縁25 x 40を取り付ける。

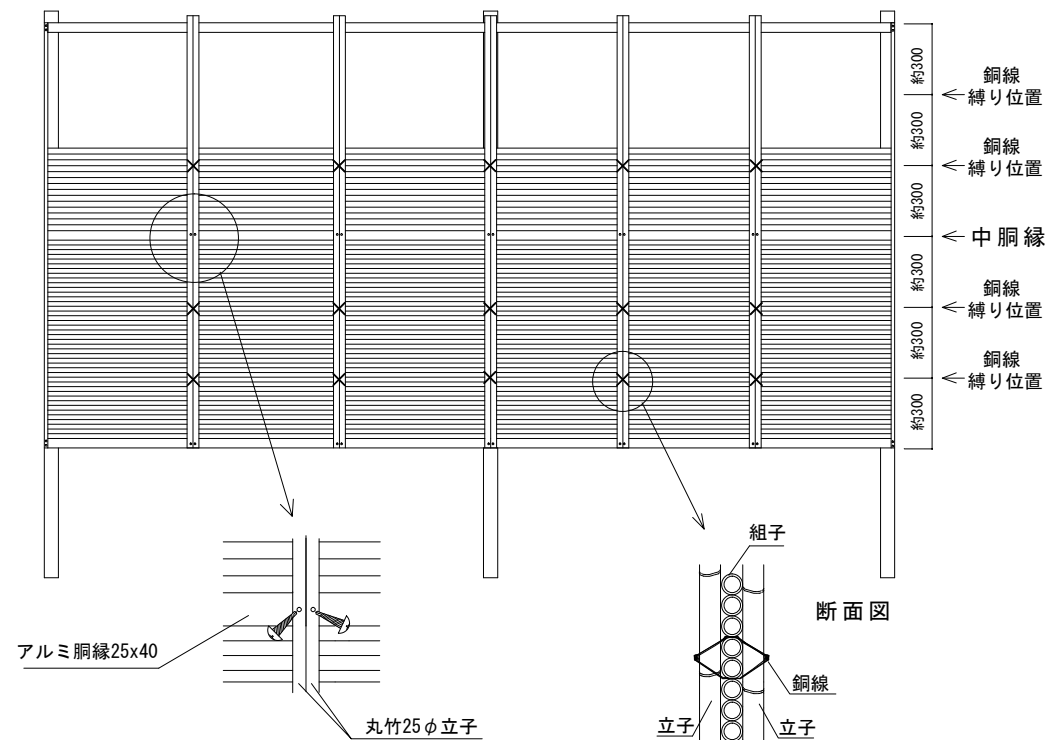
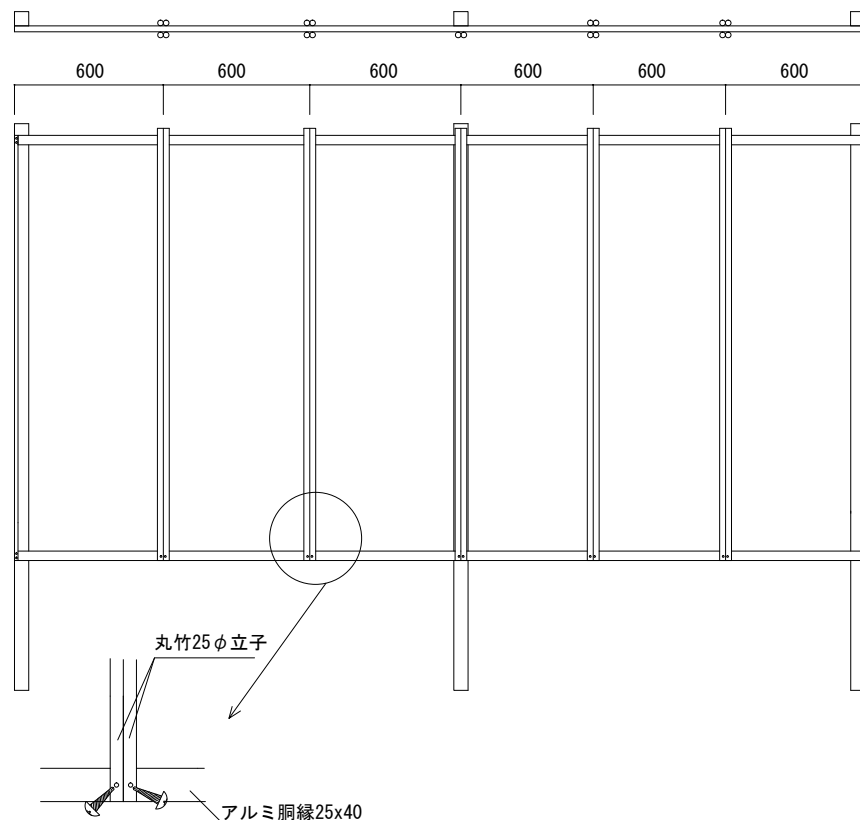
下胴縁は表側から2本ずつビスどめします。上胴縁は後の高さ調整のために1本仮止めします。 ※4 x 16 (茶) ビス使用

間柱部はアルミ胴縁25x40を直接アルミ柱にビスどめします。 ※4 x 35 (茶) ビス使用
(H=1500以上は胴縁3段、H=1500未満は上下のみの胴縁2段になります)

注：アルミ胴縁とチャンネルの間に隙間が出来ないようにビスどめして下さい。

注：アルミ胴縁を間柱に取り付ける際には、下穴を開けてからビスどめして下さい。

上から見た図



③ 下胴縁に立子を取り付ける

下胴縁に立子(丸竹25φ)をビスどめします。1箇所につき、表側と裏側に立子を2本ずつビスどめします。間柱の前にも立子を取り付けます。立子の長さは、御簾垣がH=1800の場合、L=1830が標準です。

※4×35(黄)ビス使用

④ 組子を入れ込む

組子(丸竹25φ)を下から順に入れ込みます。途中で表の立子と裏の立子を銅線を使って縛ります。銅線2本を斜め掛けにし、表と裏の立子で組子を強く挟みこむようにしっかり縛ります。間柱部は銅線を縛る前に縛る箇所の組子を直接間柱にビスどめしておきます。下から約900mmの位置に中胴縁を入れ、両端のチャンネル部と立子部をビスどめします。間柱部は直接アルミ胴縁を柱にビスどめします。 ※銅線・4×35(黄)・4×16(茶)ビス使用
注：さらに長い距離の場合は、丸竹ジョイントと胴縁ジョイントを使用し延長します。

施工説明書

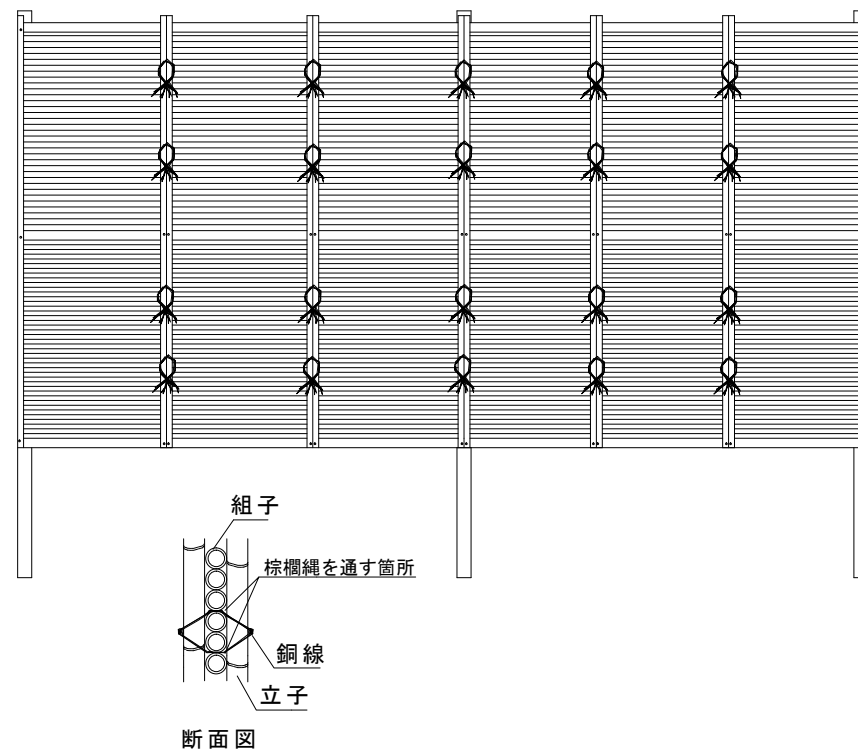
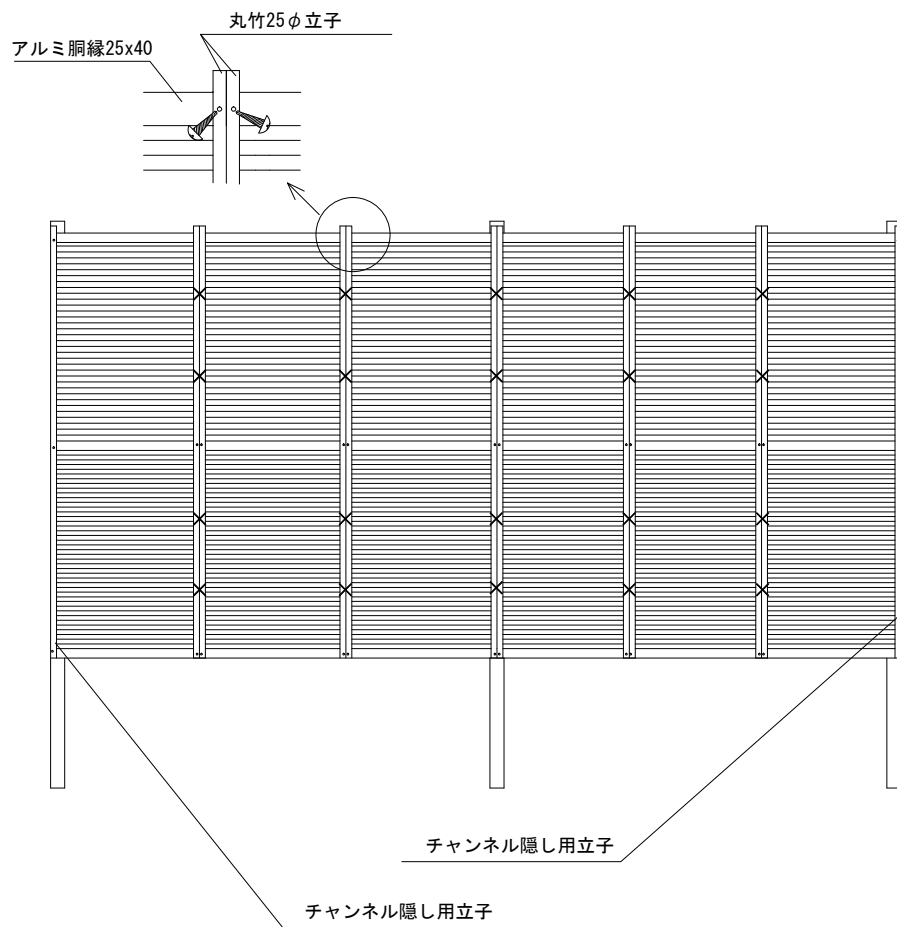
御簾垣 柱を見せないタイプ

H1800の場合（茶竹仕様の場合、ビスはすべて茶色を使用します）

株式会社エクスタイル

施工に関するお問合せは

TEL 0776-38-2533



⑤ 上胴縁を固定し両端に立子を取り付ける

上まで組子を入れ込んだら、上胴縁と組子の隙間が出来ないように上胴縁を上下させ調整します。両端のチャンネル部と立子部をビスどめし、上胴縁の固定が終わったら両端のチャンネル部分を隠すように、立子を取り付けます。

上胴縁の固定が終わったら両端のチャンネル部分

※4×35(黄)ビス・4×16(茶)ビス使用

⑥ 人工棕櫚縄で縛る

銅線の縛ってある箇所に棕櫚縄を通して結びます。

人工棕櫚縄の切り口は、バーナー等で少し熱を加えるととほづれが防止できます。最後に柱キャップ、立子キャップをして完成です。

※棕櫚縄の結び方は別紙参照